

ガザ北部 安全確保できず

食料支援 WFP 停止

【エルサレム＝共同】世界食糧計画（WFP）は20日、イスラエル軍とイスラム組織ハマスの戦闘が続くパレスチナ自治区ガザ北部への食料支援を、安全が確保されるまで停止したと発表した。ガザ北部は食料不足が特に深刻で「多くの人が餓死する恐れがある」と表明した。国連安全保障理事会は20日、軍によるガザ南部ラファへの地上侵攻回避に向け「即時人道停戦」を求めた決議案を否決。常任理事国の米国が拒否権を行使した。

即時停戦案 米拒否権

WFPによると、国連機関のトラックが攻撃されたことなどを受けて3週間停止した食料の搬送を18日に再開。しかし飢えに苦しむ住民らに車列が取り囲まれ北部ガザ市では銃撃もあった。19日には複数のトラックが略奪に遭い、運転手が暴行を受けるなど社会秩序が崩壊しているとした。

ガザ北部は昨年10月下旬に軍が最初に地上侵攻した地域で、甚大な被害が出ている。国連児童基金（ユニセフ）などによると、北部で2歳未満の乳幼児の15・6

%が深刻な栄養失調に陥っており、飢饉も懸念される。

米国はガザ休戦を巡る交渉を「妨げる」として決議案に反対した。トーマスグリーンフィールド米国連大使は、ハマスが拘束する人質の解放を条件に「可能な限り早急な一時停戦を求める」とした独自の決議案を提示すると表明した。

カタール外務省は20日、ハマスが拘束するイスラエル人々への医薬品提供を始めたことを確認したと発表した。ハマス最高指導者

ハニヤ氏は20日、エジプト当局者と休戦案などを協議するためカイロを訪問。イスラエル紙ハーレッツは大きな進展の兆しはないと伝えた。

イスラエル軍は21日、ガザ各地で攻撃を継続。国境なき医師団（MSF）は、職員らが滞在する南部ハンユニス近郊の避難所が攻撃され、職員の家族2人が死亡したと発表した。